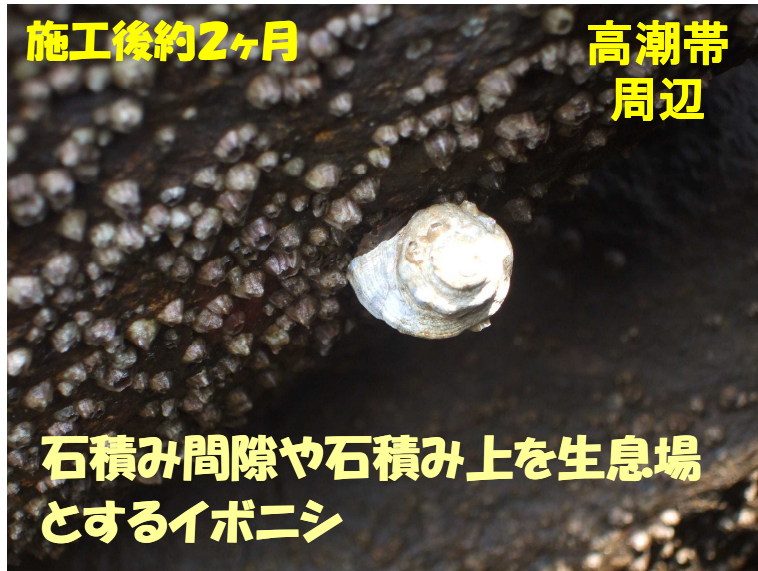


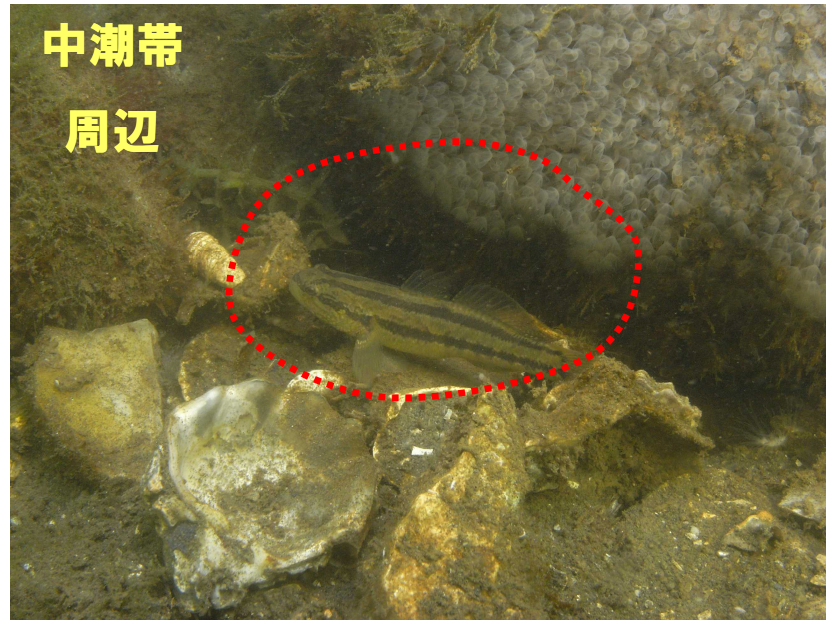
捨石工における生物確認状況(約2ヵ月後の状況)

SL-1



捨石工における生物確認状況(約2ヵ月後の状況)

SL-1



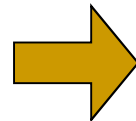
- 捨石工部は、ハゼ類の隠れ場として利用されている。

施工後約2ヶ月

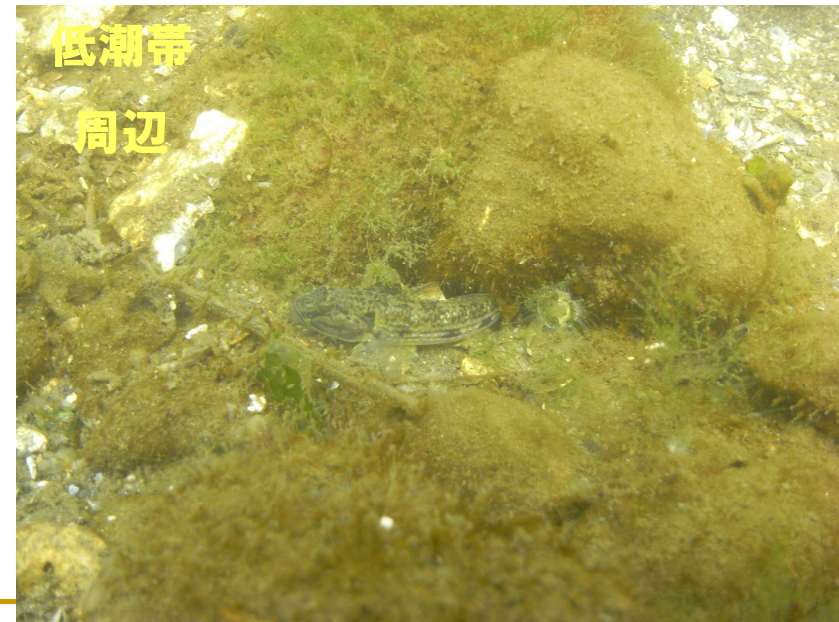


捨石工の間隙で確認されたシマハゼ

施工後約2ヶ月



隠れ場として捨石工の間隙
を利用するスジハゼ



1-7 目標達成基準1に対する検証と評価

目標
達成
基準1

改修により一時的に消滅する**現状の護岸部潮間帯の生物群集**が**再定着**すること。



検証
結果

- **捨石施工後約2ヶ月**が経過したSL-1の潮間帯生物については、中潮帯を除き、種類数が3種以上確認されている。中潮帯については、魚類を含めると3種以上となっている。低潮帯は期間中最多の種類数が確認された。
- 工事が行われていないSL-2は、季節的な変動がみられたが、種類数については、過年度調査と同程度であり、各層共に3種類以上確認されている。



工事
2ヶ月
後の
評価

施工途中段階ではあるが、捨石工で潮間帯生物の再定着によりハビタットの基盤が概ね形成されていることが確認された。

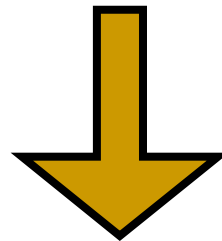
今後、本工事により被覆護岸が施工されたとしても、潮間帯のハビタットとして機能されるものと、考えられる。

今後も引き続き、潮間帯生物群集の形成と遷移の状況についてモニタリング調査により検証を継続する。

個別目標：環境・改修により一時的に消滅する護岸部潮間帯の生物群集が再定着すること、及び改修工事が周辺生態系の基盤を構成する地形や底質に極力影響を及ぼさないこと

目標達成基準2

周辺海底地形に洗掘等の著しい変化が生じないこと。



地形調査結果及び底質(粒度)調査結果から検証を行う。

2. 海底地形及び底質の状況と検証評価

2-1 調査実施状況

護岸改修時期	調査年月
施工前	平成21年11月
施工後約2ヶ月	平成23年10月

2-2 調査方法

- ・地形調査は音響測深器による深浅測量、及び汀線測量による。
- ・底質調査は、ダイバーによる表層砂泥採取、粒度試験を行う。